

大日本スクリーンとキヤノンがアッシング・洗浄一体型装置を共同開発

大日本スクリーン製造株式会社（社長：石田 明、本社：京都市上京区）とキヤノン株式会社（社長：御手洗 富士夫、本社：東京都大田区）は、300mm ウエハー対応のアッシング・洗浄の一体型装置“Raccoon（ラクーン）”を共同開発し、12月から販売します。

半導体の製造工程では、回路パターンを形成した後、パターンの焼き付けを行ったレジスト（感光液）を除去します。この際、レジストの主成分である炭素や酸素、水素といった物質はアッシング装置でプラズマ化したガスと反応させることにより分解し、その後に残った重金属などの不純物は洗浄装置を使って薬液洗浄しています。

新製品“Raccoon”は、大日本スクリーンの枚葉式洗浄装置「MP-3000」（2000年11月発売）とキヤノンのアッシング装置「SURPASS 300/320」（99年6月発売）を一体化したもので、不要となったレジストを除去する2つの工程を1台で処理することにより、ウエハーの運搬や保管にかかる手間やリスクを軽減し、高い生産性と安定した品質を実現します。また、装置本体は従来の「MP-3000」と同じ設置面積を達成しているため、工場における省スペース化やクリーンルームの投資抑制にも貢献します。

従来のアッシング・洗浄工程では装置間のウエハー搬送が不可避であり、アッシング処理後に残った不純物が、時間の経過とともに、強固にウエハー上に付着する可能性がありました。また、搬送に使用されるFOUP（フープ：プラスチックケース）内で有機不純物などがウエハーを汚染したり、逆にレジストの残渣（残りかす）がFOUP内部を汚してしまうこともありました。新製品“Raccoon”は、こうした問題を解決し、デバイス製造の生産性や品質を高める新しい仕組みとして、大日本スクリーンとキヤノンが2001年9月から共同で研究開発を行ってきたものです。

なお、新製品“Raccoon”は、12月3日から5日まで千葉・幕張メッセで開催される展示会「SEMICON Japan」で紹介する予定です。

* “Raccoon”は大日本スクリーン製造株式会社とキヤノン株式会社の共同出願中の商標です。

販売開始予定	国内希望販売価格（税別）	初年度国内※目標販売台数
2003年12月	2億円～（仕様により異なる）	20台

※当面は国内向け販売とし、市場状況を見ながら海外展開を検討して行きます。

【この件に関するお問い合わせ先】

大日本スクリーン製造株式会社 広報室
TEL（直通）：075-414-7131、FAX：075-431-6500

キヤノン株式会社 広報部 広報第一課
TEL（直通）：03-5482-3805、FAX：03-5482-5130